

# もり (仮称) 静岡市森林づくり基本計画 概要版【案】

## 第1章 計画の背景

### (1) 計画策定の目的

静岡市は、市域の76%の約10万7千haの広大な森林を持っている。これまで本市は、「静岡市森林整備計画(計画期間2025年～2035年)」に基づき、主に林業経営を行う人工林を中心に計画的な施策を進めてきた。しかし、この計画は林業生産を主体とした森林に焦点を当てており、適切な施策が行われず荒廃した森林や、林業経営の対象とならない森林の管理方針までは十分に示されていなかった。このため、市内の森林全体を見据え、森林の保全と木材の利活用の両立を図る新たな枠組みとして、「(仮称)静岡市森林づくり基本計画」を策定する。新たな計画では、市内の森林全体を「環境林」と「循環林」という新しい概念のもとに区分する。環境林では、森林の有する公益的機能の高度発揮を目指し、循環林では公益的機能に配慮しつつ、木材生産を主体とした循環利用を行うことで、適切な森林経営を推進する。

### (2) 計画策定の背景

世界の平均気温は、過去30年の平均値より高く上昇傾向にあり、地球温暖化の進行が懸念されている。一方、国内では時間50mm以上降雨の発生件数が増加し、土砂災害発生件数も近年増加傾向にある。森林は、降った雨を涵養し、長い時間をかけて良質な水を安定的に下流域へ供給する水源としての機能のほか、二酸化炭素吸収、生物多様性保全などの公益的機能を通じて、気温や水量の調整、温暖化の防止などに寄与している。しかし、森林所有者の高齢化や木材業界(林業や木材加工業)の状況悪化により、管理不足が原因で荒廃した人工林が増加し、山地災害等を引き起こす恐れが高くなっている。このため、適切な森林の管理や、森林の機能に対する理解、整備への意識を高めることが急務となっている。



間伐が行われず、細い樹木ばかりで日が入らない、荒廃した針葉樹人工林

## 第2章 現状と課題



### 公益的機能の維持に関する現状と課題

戦後(昭和20年頃)の「拡大造林政策」により植えられたスギやヒノキが主伐期を迎えているが、地形が急峻で施業に向いていないことなどから、多くが伐採されていない。間伐等の施業が適切に行われない場所では、細い樹木ばかりで日が入らない暗い森林となり、公益的機能が低下している。山間部のみならず都市部の市民も享受する公益的機能を維持するため、市民全体で森林の環境整備を支援する仕組みを構築する必要がある。

### 木材産業に関する現状と課題

市内の森林所有者は小規模森林の所有者が大部分を占めるが、所有者不明なもの、所有者が手放すことを希望しているものが増えるなど、自力での森林管理の継続が難しくなっている。また、森林所有者の収入に相当する立木価格に対し、育林経費が高く、再造林が進んでいない。木材の安定供給もできていない。木材業界全体で、労働力が不足している問題もある。集約化、木材需要を的確に把握した立木提供と価格向上、担い手確保を並行して進める必要がある。

### 森林をとりまく社会の現状と課題

市域の大部分が森林であるが、都市部の市民は森林の恩恵を受けていることを理解していない、と言われている。木材業界内でも、森林情報や業界情報が共有できておらず、業務が非効率になっている部分がある。森林・木材への理解を深め、市民全体でその恩恵を認識すること、情報共有の仕組みを構築することが必要である。

## 第3章 目指す将来像と計画の基本方針

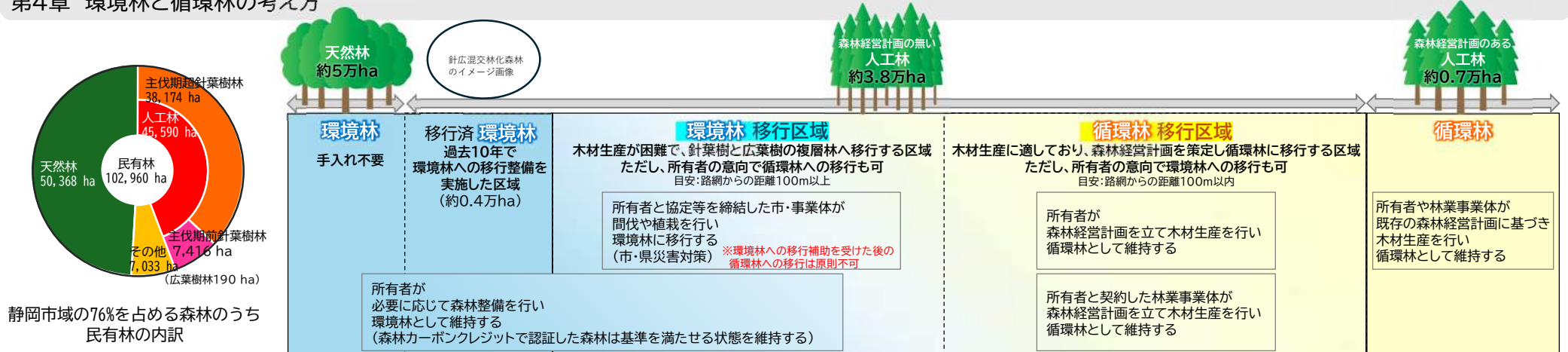
**【将来像】**  
森林資源の保全と利活用を通じて、人と森林とのつながりを育みながら、豊かな生活ができる。

もり  
安全安心な生活を守る森林づくり  
(環境林)

もり  
森林資源を活かす森林づくり  
(循環林)

もり  
社会全体の力で支える森林づくり

## 第4章 環境林と循環林の考え方



森林経営計画: 効率的・計画的な森林経営を実施する5ヶ年計画。伐採届により進捗状況を確認する。

